

本書は、京セラ株式会社の2021年に発行されるレポート及び関連するWEBサイトに示されるサステナビリティ活動に対するSGSジャパン株式会社の保証報告書である。

保証の特質及び範囲

SGSジャパン株式会社は、京セラ株式会社からの依頼に基づき、2021年に発行されるレポート及び関連するWEBサイト(以下、報告書)の第三者保証業務を行った。保証の範囲は、SGSサステナビリティ報告書保証手続きに則り、当報告書のステークホルダーマネジメントプロセス、温室効果ガス (Scope1、2及び3 (カテゴリ1)) 排出量、エネルギー使用量、水 (使用量・排水量)、産業廃棄物、有害廃棄物排出量、VOC排出量・取扱量、女性管理職比率、休業災害度数率及び業務上疾病度数率に関する情報、及び報告プロセスをサポートするマネジメントシステムである。なお、範囲の詳細は別表参照。

当報告書に示されている情報やその掲載は、組織の取締役会または管理機関、及び経営層の責任に帰するものである。SGSジャパン株式会社は、当報告書に含まれる内容の準備には関与していない。

我々の責任は、保証の範囲内における文章、データ、グラフ及び声明について意見を表明し、組織のすべてのステークホルダーに意見を供することである。

SGSグループは、現在最も優れた指針を提供しているGRIサステナビリティ報告ガイドラインやAA1000保証基準に基づき、サステナビリティの保証にかかわる基準を確立している。保証レベルの基準には、保証機関のためのガイダンス及びAA1000シリーズの基準を含んでいる。

本保証業務においては、我々の基準を採用し、中程度の保証レベルによって、以下の業務を行った:

- 内容の正確性についての評価;
- AA1000アカウントビリティ原則(2018)に対する報告書内容及びサポートするマネジメントシステムのAA1000アシュアランススタンダード(V3)におけるタイプ2の評価;
- ISO14064-3(2006)による評価;

保証業務は、事前調査、関連従業員及びマネージメントへのインタビュー、現地訪問 (京セラドキュメントソリューションズ株式会社玉城工場及び京セラ本社)、証拠書類等との照合及び確認、資料及び記録のレビュー、分析的手続などの組み合わせによって実施した。新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、遠隔検証技法を検証活動の一部(インタビュー、証拠書類等との照合及び確認、京セラ本社からの山形東根工場のリモート検証)に採用した。

財務データについては、会計士によって直接、独立した監査が行われており、本保証の過程においては、詳細な調査を行っていない。

独立性と力量の声明

SGSグループは、検査、試験、検証業務における世界的リーダーであり、140を超える国々で、品質、環境、社会及び倫理にかかわるマネジメントシステム認証業務や、トレーニングサービスを実施し、環境、社会及びサステナビリティ報告書保証業務を提供している。SGSジャパン株式会社は、組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する資格に基づき構

成されており、ISO9001、ISO14001、ISO45001、温室効果ガス排出量の主任審査員を含んでいる。

保証意見

前述の要領に基づいて実施した保証手続きの範囲において、当報告書に含まれている情報やデータは、2020年4月1日から2021年3月31日における京セラグループ（以下、組織）のサステナビリティ活動を公正かつ相応に表現したものでないと認められる重要な事項は発見されなかった。

当報告書は、組織のステークホルダーにとって有効なものとなっている。
我々は、組織が報告内容に対して適切な保証レベルを設定していると判断する。

AA1000アカウンタビリティ原則 (2018) 結論, 発見事項及び推奨事項

包摂性

京セラグループは「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」を経営理念に掲げ、人間として何が正しいかを判断基準とする「京セラフィロソフィ」をベースに経営を行っている。社会課題の解決に資する企業活動を使命と考え、ステークホルダーとの相互信頼の構築及び組織の持続的な発展を図るとともに、社会の健全な発展に貢献することを目的としている。また、お客様、従業員、株主、投資家、お取引先様といった全てのステークホルダーを重要視し、重要課題を特定し、事業戦略として、事業活動を通じてこれら課題に対応している。

以上により、包摂性の原則に対応していることを、本検証にて確認した。

重要性

重要な課題は、社長を委員長とする京セラグループCSR委員会で議論され、事業戦略として対応している。選定した重要課題は、SDGsとの関連性を考慮し社会課題の解決を実現する事業開発と経営基盤の強化を行う項目として特定されている。

以上により、重要な課題が特定されていることを、本検証にて確認した。

対応性

選定した重要課題に対する活動実績はレポート及びWEBサイトにおいて報告されている。各ステークホルダーに対し、SDGsや企業評価指標、お客様からのCSR調査内容、サプライチェーンCSR調査、CSR報告会での地域社会からのご意見、法的要求事項、2年に1度全従業員に対して実施している職場の活力診断結果、投資家からのESG面談を実施し、ニーズ及び期待を把握している。

以上により、課題に対応していることを、本検証により確認した。

影響

選定した重要課題に対する活動実績はレポート及びWEBサイトにおいて詳細事例を含め報告されている。この報告には、検証対象として特定したサステナビリティパフォーマンスの生態系若しくは社会への影響についての評価が含まれている。

以上により、影響の原則に対応していることを、本検証にて確認した。

SGSジャパン株式会社

認証・ビジネスソリューションサー

ビス事業部長

上級経営管理者

竹内 裕二



AA1000
Licensed Report
000-8/V3-A44ET

2021年6月21日

検証対象範囲の詳細

検証対象	検証範囲及び対象時期	検証数値
1 温室効果ガス排出量 (Scope1,Scope2)、エネルギー使用量 (※敷地外移動体除く)	京セラグループの国内外生産拠点 73サイト 2020年4月1日~2021年3月31日	Scope1 : 159,426 tCO2 Scope2 : 684,122 tCO2
2 温室効果ガス排出量 (Scope3 : カテゴリ1)	京セラグループの国内外生産拠点 及び非生産拠点 2020年4月1日~2021年3月31日	3,510千tCO2
3 水 (使用量・排水量) ※生産に伴うものに限る	京セラグループの国内外生産拠点 73サイト 2020年4月1日~2021年3月31日	使用量 : 16,744 千m ³ 排水量 : 12,568 千m ³
4 産業廃棄物、有害廃棄物排出量	京セラグループの国内外生産拠点 73サイト 2020年4月1日~2021年3月31日	合計 : 26,345 t
5 VOC排出量・取扱量 (電気・電子4団体 ^{※1} 指定20物質 ^{※2} 対象)	京セラグループの国内生産拠点23 サイト 2020年4月1日~2021年3月31日	大気排出量 : 573 t 取扱量 : 4,259 t
6 休業災害度数率	京セラ(株)及び京セラグループの国 内5社 2020年4月1日~2021年3月31日	0.30
7 業務上疾病度数率	京セラ(株)及び京セラグループの国 内5社 2020年4月1日~2021年3月31日	0.21
8 女性管理職比率	京セラ(株) 2021年4月1日時点	3.7%

※1一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)
一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)
一般社団法人日本電機工業会 (JEMA)
一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

※2

1	イソプロピルアルコール	2	トルエン	3	アセトン	4	酢酸ブチル
5	メタノール	6	キシレン	7	メチルエチルケトン	8	ジクロロメタン
9	スチレン	10	エタノール	11	エチルベンゼン	12	テトラヒドロフラン
13	1-メトキシ-2-プロパノール	14	n-ブタノール	15	クロロホルム	16	メチルイソブチルケトン
17	n-ヘプタン	18	酢酸エチル	19	トリクロロエチレン	20	シクロヘキサノン